

3類型	観光資源	通巻番号	5-21-016
地域資源名	吉野山	認定日	平成21年7月1日
地 域	奈良県吉野郡吉野町	所管省庁	農林水産省、経済産業省、国土交通省

事業名：「救おう千年の桜プロジェクト」に因む吉野山の桜再生プログラムを付加したエコカルチャースクール「吉野山さくら学級」と関連観光商品の開発・販売

会社名：太鼓判
連絡先：TEL：0746-32-3071
FAX：0746-32-1103

所在地：奈良県吉野郡吉野町吉野山
1278番地
H P：http://taikoban-kamkam.in

事業概要（新たな活用の視点）

- ・吉野山（世界遺産）は古来より、御神木として桜を育ててきた。シロヤマザクラを中心に約3万本の桜があるが、現在の桜は明治時代以降に種を植えた桜であり、寿命や環境の変化等のため、年間100本以上の桜が立ち枯れの危機に瀕している。
- ・本事業は、この素晴らしい桜を未来に引き継ぐことを目的とした、桜の再生と森林整備プログラム（年間6回、桜育成・山整備）を実施する。また、自分の植えた桜の成長をネット配信により確認できる仕組みを構築。
- ・吉野山は、日本の精神文化、伝統文化の宝庫であり、これらの文化に桜の再生と森林整備プログラム、更にほんまもの体験（技術や生活の知恵）と連携メニューを提供する。



【桜満開の吉野山風景（4月）】



【立ち枯れした桜】

売れる商品づくり（競争力、市場性、販路）

◆競争力

- ・桜の再生は、エコロジーの高まりから時代に合った観光商品となっている。また、吉野山「心の桜を再生する旅」をコンセプトとした体験メニューも時代のニーズとフィットする。
- ・年間を通じたスケジュールとなっており、自然や伝統文化を学ぶカルチャースクールを組み合わせた、リピーター確保の観光商品となっている。

◆市場性

- ・国内旅行を好む団塊世代や中高年にとって近場の旅行を生きがい作りや、公益性の高い活動としてとらえた新サービスの開発を行っている。

◆販路

- ・主たるターゲットは、ボランティアに興味があり、自然や歴史に興味のある団塊の世代。若者、ファミリー層、および外国人観光客、教育旅行などを新たにねらう。



【桜守との植樹】

地域資源における関係事業者との連携

- ・地域産業をはじめとする地元事業者や地域住民・高校と連携を図ることで、交流から生まれる地域物流と安住を創造しながら地域経済の活性化を目指している。